

## 平成 22 年度第 5 回機器及び安全に関する委員会 議事録

日時：平成 23 年 3 月 3 日（木） 17:00～19:30

場所：日本超音波医学会事務局会議室

参加者（13 名、敬称略）：秋山いわき（議長）、蜂屋弘之、飯島尋子、石原謙、工藤信樹、上妻志郎、高田悦雄、内藤みわ、名取道也、梅村晋一郎、山口匡、新田尚隆（記録）、玉野聡（JEITA オブザーバー）

### 議事

#### 1. 前回議事録確認

- ・ 第 3 回及び第 4 回議事録について確認した。
- ・ 公開する議事録中の専門用語・略語については、特に脚注や説明を付けない。
- ・ 第 4 回以降の議事録は理事会要請に基づき原則公開する。
- ・ 議事録公開の対象は、主に本学会会員である。

#### 2. 携帯型超音波診断装置の区分について

- ・ 携帯型超音波診断装置の診療報酬検討小委員会にて作成された、超音波診断法の診療報酬に関する改訂要望の叩き台について説明がなされた。
- ・ 上記要望案では、装置の大小と診断内容に基づく診療報酬の算定素案が示され、装置の大小については「手掌大」という表現で区分されていること、診断内容については「超音波診断医」による診断を加点対象にする旨説明がなされた。
- ・ 携帯型超音波診断装置の区分に関する検討WGでの検討結果が報告された。超音波診断装置の性能区分に関する新たな指標の提案が示された。
- ・ 上記性能区分指標に対する JEITA 見解が説明された。超音波診断装置性能区分の国際規格が存在しない現段階では、上記指標は現実的でなく、現実的な区分方法として、ディスプレイサイズ and/or 本体重量による区分を支持するとの報告がなされた。
- ・ JEITA 見解を踏まえ、「手掌大」については性能区分でなく、モニターサイズで区分することが妥当であると結論づけて理事会に報告することとした。報告資料として上記 JEITA 見解のレポートを採用し、上記性能区分指標案及び第 2 回本委員会議事録も添付することとした。
- ・ モニターサイズによる区分では、抜け道が多く不十分であるとの意見があった。
- ・ 「超音波専門医」ではなく、「超音波診断医」とした理由について議論があった。また、診断精度を高める良い技術が出てきたときに、それに応じて診療報酬を上げる働きかけをすべきであるとの議論があった。

#### 3. 精度管理手法検討小委員会報告

- ・ 診断上問題となる劣化画像の原因として 8 種類を選定。3/24 開催の委員会で検討し、会員向け資料作成予定。
- ・ モニター精度管理についても議論中。AAPM（American Association of Physicists in Medicine）についての情報収集中。

- ・ 目的について議論があった。将来、保守に関するガイドラインを出すことを念頭に、現時点では、知識として会員に周知し注意喚起することが目的であることを確認した。

#### 4. レギュラトリーサイエンス小委員会報告

- ・ 音響放射力イメージングにおける温度上昇に関して、これまでの検討結果（熱電対・サーモグラフィ実験、シミュレーション）について報告がなされた。
- ・ 熱電対計測法・サーモグラフィ結果・シミュレーション方法について議論があった。

#### 5. 音響放射力関連

- ・ 「音響放射力の生体への影響検討小委員会」の設置を承認した。

#### 6. WFUMB 安全委員会について

- ・ WFUMB 安全委員会委員長からの要請があった。近年、肺での超音波診断例が増えてきたが、通常の超音波診断装置のレベルで出血が起こるとの報告があり、これについて審議した。委員会開催は4月。
- ・ 上記報告について、学術面、診断応用面、原理面からの議論がなされた。

以上